

南倉階与棚外

(131) 篋

篋

二張

(南第七三號)

和名百濟琴なり、今存するものはその殘材のみ、收集して箱に納む。傍に摹造二張を附す。

(132) 古

裂類

重箱八臺

(南衣帶襖帳等ノ内)

整理を了して重箱に納めたるもの、一部をこゝに出す。重箱の目左の如し。

天號 地號 玄號 黃號 宇號  
 宙號 洪號 荒號

參照年表

紀元	御宇	年號	記	事	西洋年
一三三三	天武		天皇在位		六七三
一三四六	文	慶雲四	七月二十六日壽序日付		六八六
一三六七	元	和銅三	都を平城に遷す		七〇七
一三七〇	元	同五	(唐玄宗位に即く)		七一〇
一三七二	聖	神龜元	天皇即位		七二四
一三八〇	武	天平元	神龜六年八月五日改元、光明子を立て、皇后とす		七二九
一三九一		同三	九月八日雜儀御日付		七三一
一四〇一		同三	詔して諸國に國分寺を建てしむ		七四一
一四〇四		同六	十月三日樂毅論御日付		七四四

一四四七	桓武	延暦六	六月二十六日曝涼使解日付	七八七
一四五三	桓武	同一二	六月十一日曝涼使解日付	七九三
一四五四	桓武	同一三	都を平安に遷す	七九四
一四七一	嵯峨	弘仁二	九月二十五日勅物使解日付	八一
一四八三	嵯峨	同一四	弘仁年間屢寶物の出藏、還納、換納あり	八二三
一四八六	淳和	天長三	九月一日雜物出入帳日付	八二六
一五一六	文德	齊衡三	六月二十五日雜財物實錄日付	八五六
一八四〇	高倉	治承四	大佛炎上	一一八〇
一八四五	後鳥羽	文治元	八月二十八日大佛開眼	一一八五
一八九〇	後堀河	寛喜二	十月二十七日盜入寶庫に入り御鏡を竊む	一二三〇
一九一四	後深草	建長六	六月十七日雷寶庫に震す	一二五四
二一二五	後土御門	寛正六	足利義政に黄熟香を賜ふ	一四六五
二二二七	正親町	永祿一〇	松永久秀大佛殿を焼く	一五六七

一四〇九	聖武	天平元	四月改元	七四九
一四一二	孝謙	勝寶元	七月天皇即位、改元	
一四一六	孝謙	同四	四月九日大佛開眼	七五二
一四一七	孝謙	同八	五月三日太上天皇(聖武)崩す 六月二十一日國家珍寶及種々藥を東大寺に獻す 七月二十六日屏風花籃等を東大寺に獻す (去年唐安祿山反し、此の年玄宗蜀に奔る)	七五六
一四一八	孝謙	同九	正月二十一日沙金請文日付、八月改元	七五七
一四一九	淳仁	寶字二	六月一日大小王眞蹟を東大寺に獻す	七五八
一四二〇	淳仁	同三	十月一日齊屏風を東大寺に獻す	七五九
一四二四	淳仁	同四	三月十九日桂心請文日付	七六〇
一四二七	淳仁	同八	五月惠美押勝亂を爲す、九月十一日御甲御大刀御弓出藏	七六四
一四四一	稱徳	天平神護三	八月神護景雲を改元	七六七
	稱徳	天應元	王羲之書法出藏後還納	七八一

二二三四	正親町	天正二	織田信長に黄熟香を賜ふ	一五七四
二四九三	仁孝	天保四	寶庫及び寶物を修理す、翌年に亘る	一八三三
二五三七	明治	明治一〇	奈良行幸黄熟香を截らしめらる	一八七七
二五五二		同二五	御物整理掛を置き寶物を修理す、後數年に亘る	一八九二
二五七三	今上	大正二	寶庫を修理す	一九一三

四

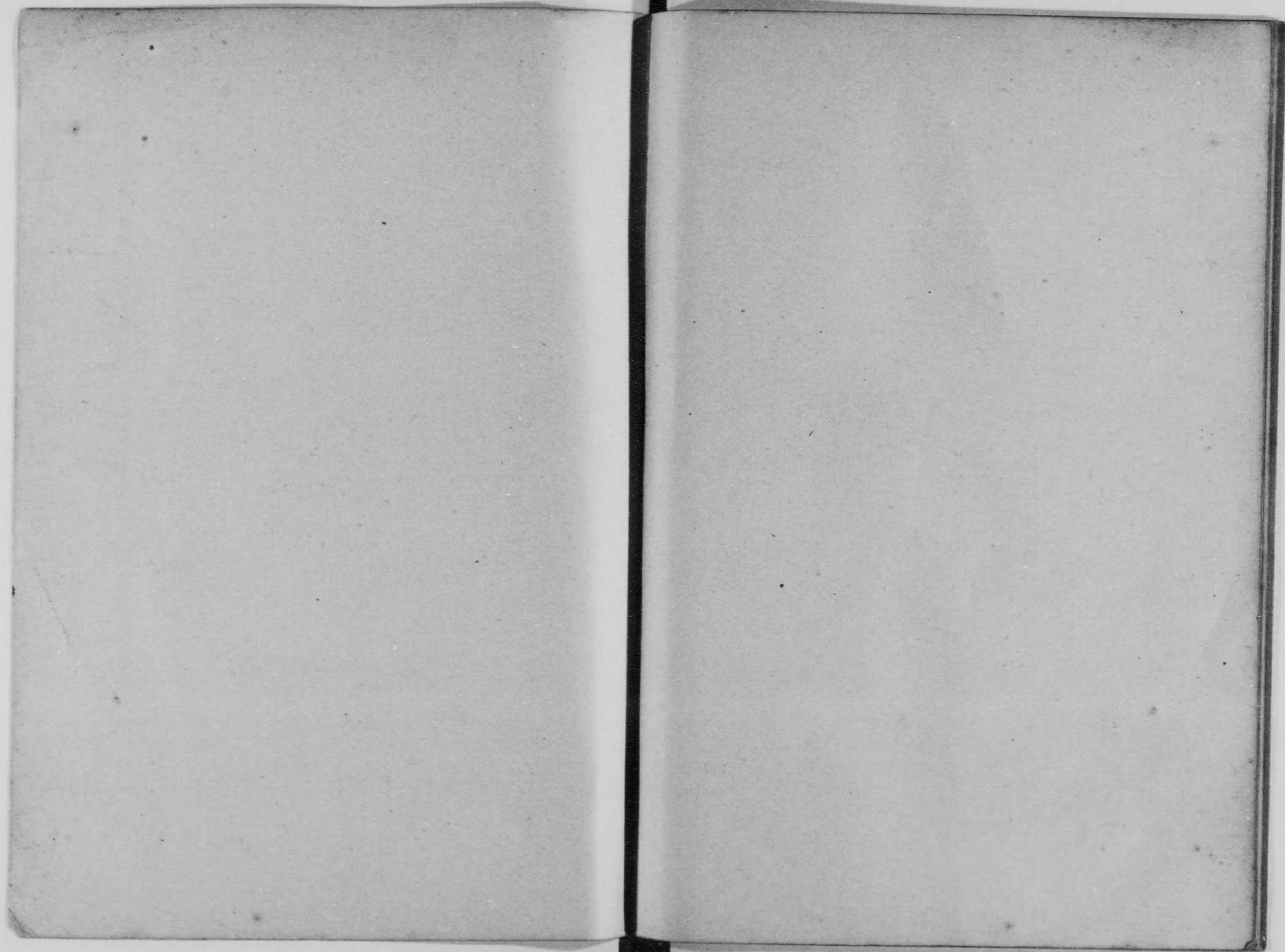
大正十四年十月廿一日印刷  
大正十四年十月廿六日發行

(定價金五拾錢)

不許  
複製

皇室博物館

東京市神田區三輪町三丁目七十一番地  
印刷者 川西房治郎  
東京市神田區三輪町三丁目七十一番地  
印刷所 株式會社共榮舎



終

